

2021年度入学者選抜に向けた 各大学の検討状況について

0. 事業概要 (1) 事業の目的、(2) 調査概要

■事業の目的

- ◆ 2021年度大学入学者選抜から大学入学共通テストを実施し、新たに国語及び数学において記述式問題を導入するとともに、英語について、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を適切に評価するため資格・検定試験を活用することとしています。
- ◆ このような中、各大学における大学入学共通テストや英語の資格・検定試験の活用見込み等について把握するため、調査を行いました。

■調査の概要

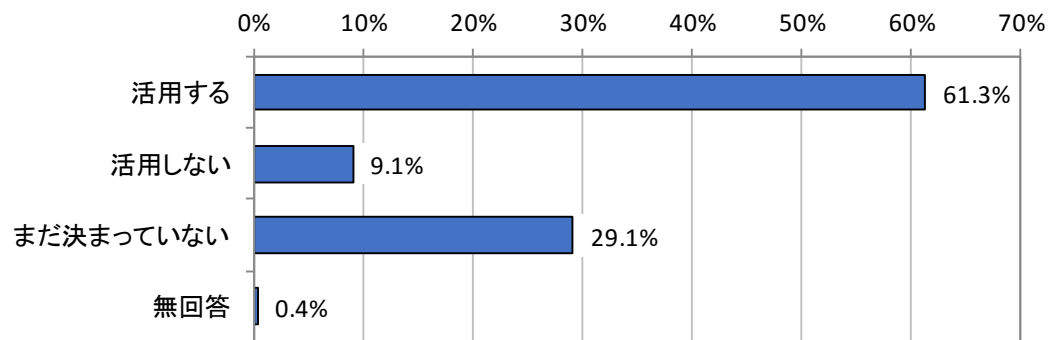
- ◆ 調査方法：大学院大学を除く全国の大学にアンケート調査票をメールで送付。
- ◆ 調査対象：1,068件(大学：759校、短期大学：309校)
- ◆ 調査期間：2019年1月11日(金)～2019年1月25日(金)(ただし、3月19日まで回答受付)
- ◆ 有効回答数：964校(大学：692校、短期大学：272校)、回収率90%
- ◆ 調査委託先：株式会社リベルタス・コンサルティング(東京都千代田区六番町2-14東越六番町ビル2F)
※あわせて、入試改革について検討の進んでいる6校に対してヒアリング調査を実施。

1. 大学入学共通テストについて (1) 大学入学共通テストの活用

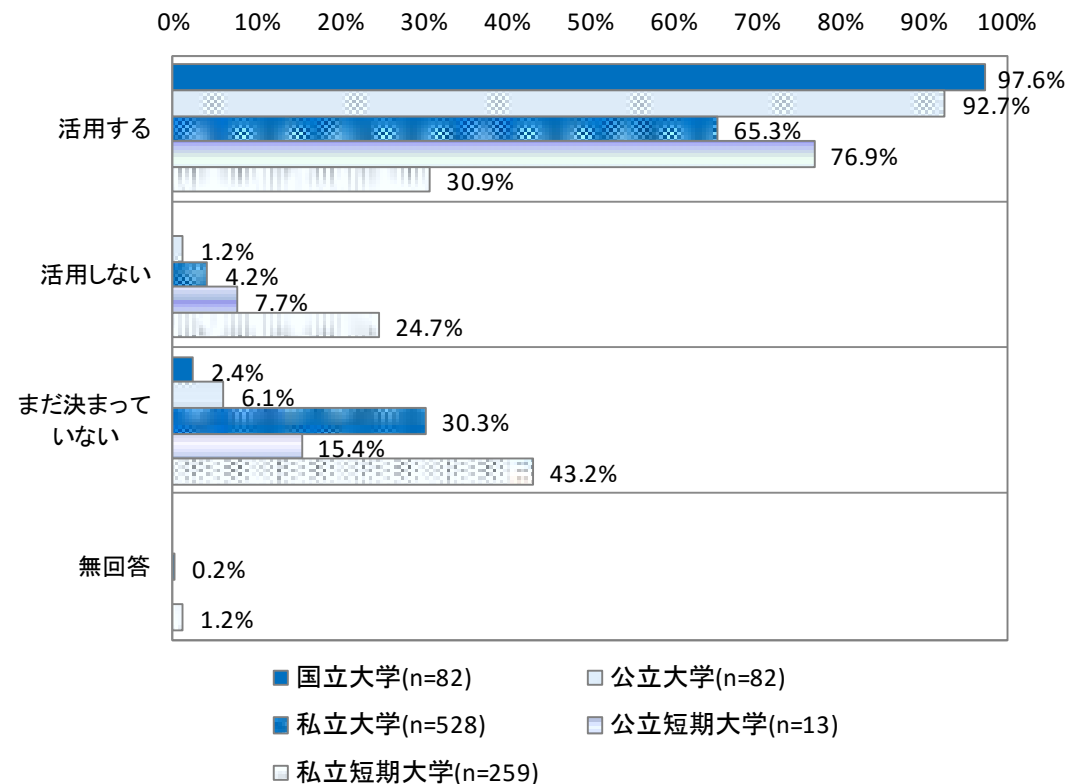
■大学入学共通テストの活用を決めている大学・短大は、全体の6割以上。(「まだ決まっていない」が約3割。)

■特に、国立大学、公立大学は9割以上が活用すると回答。

大学入学共通テストの活用(n=964)



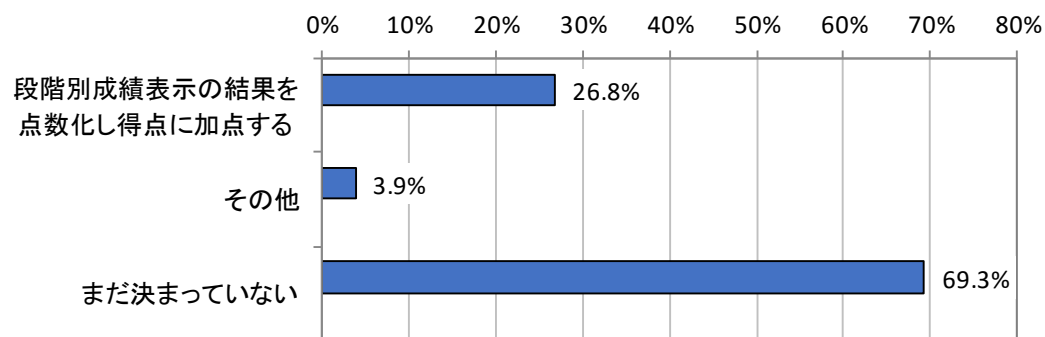
大学入学共通テストの活用(設置者別)



1. 大学入学共通テストについて (2) 国語の記述式問題の活用方法

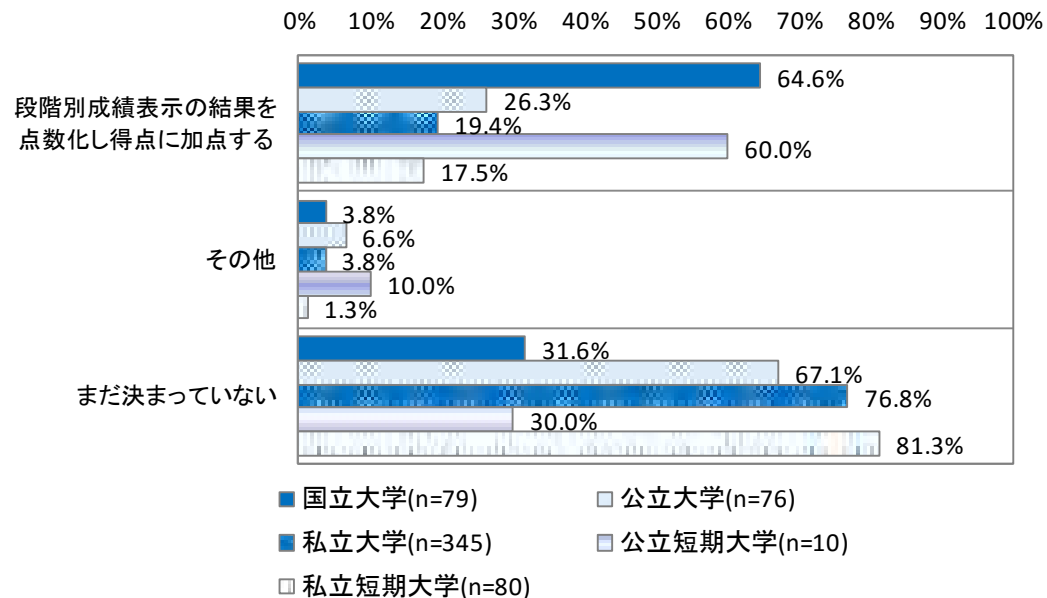
- 国語の記述式問題の活用方法は、「まだ決まっていない」が約7割。
- 国立大学は「段階別成績表示の結果を点数化し得点に加点する」割合が6割強。

国語の記述式問題の活用方法(n=590(※))



(※)n=大学入学共通テストを「活用する」と回答した数

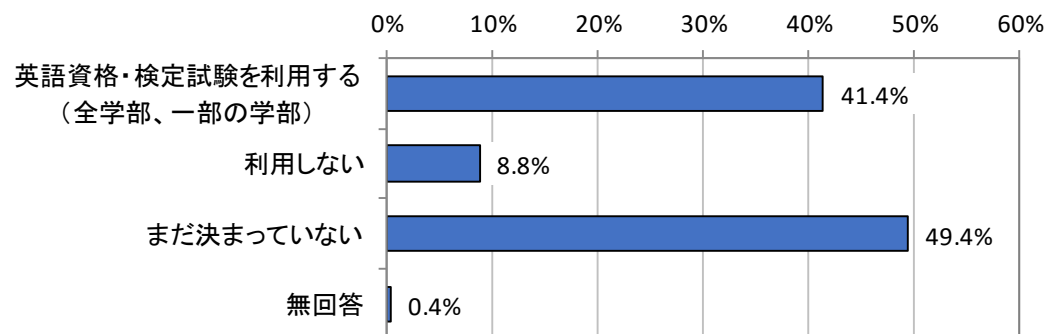
国語の記述式問題の活用方法(設置者別)



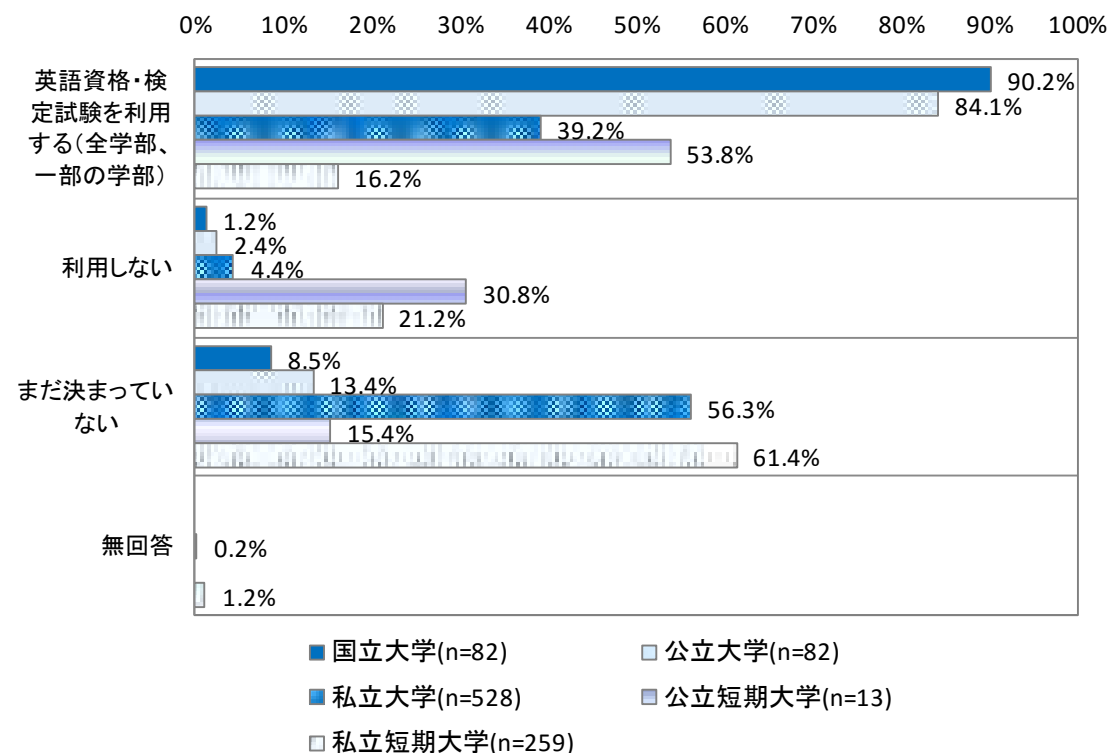
2. 英語の資格・検定試験の活用について (1) 利用有無

- 「大学入試英語成績提供システム」に参加する英語資格・検定試験の結果の利用については、「利用する」が4割強、「まだ決まっていない」が5割弱。
- 国立大学の9割以上、公立大学の8割以上が「利用する」と回答。

英語資格・検定試験の利用について(n=964)



英語資格・検定試験の利用について(設置者別)

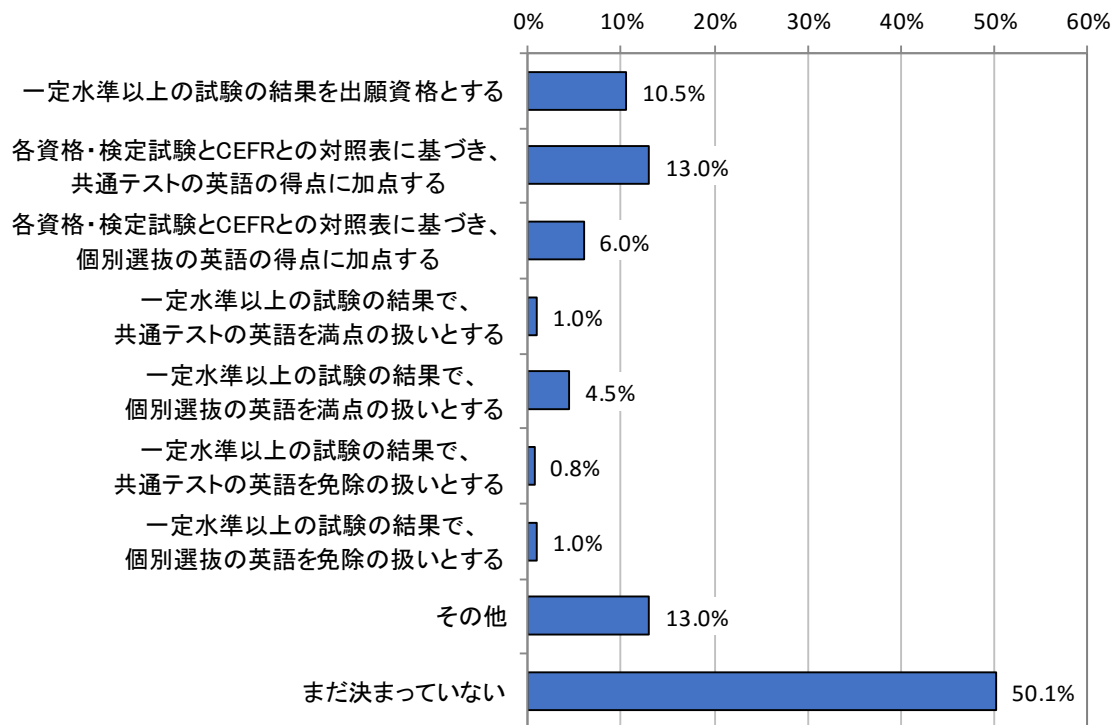


2. 英語の資格・検定試験の活用について (2) 活用方法

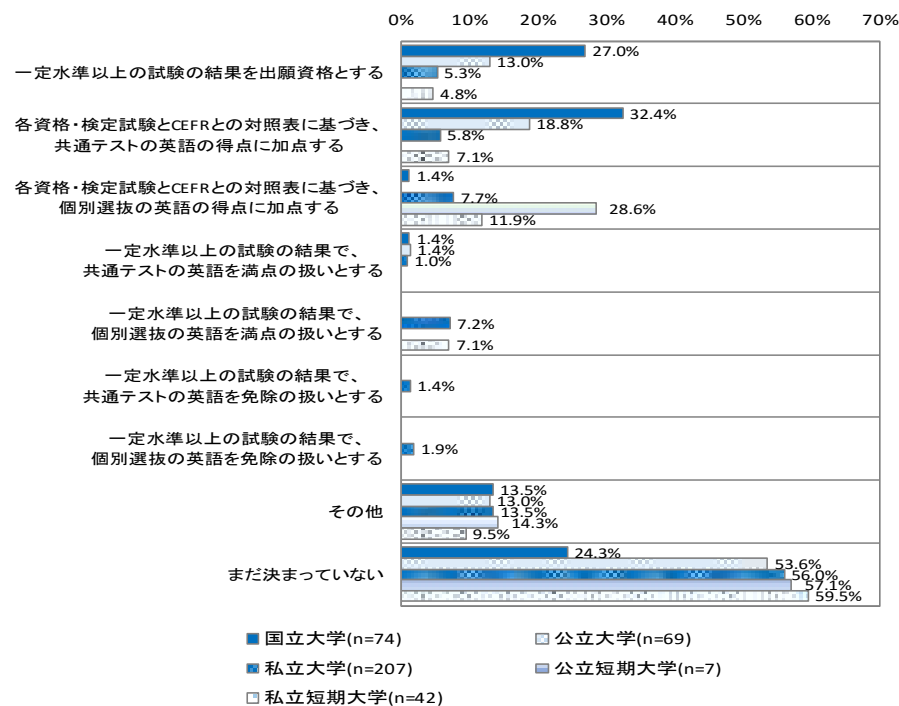
■「大学入試英語成績提供システム」に参加する英語資格・検定試験の結果を利用する大学・短大について、活用方法についてみると、共通テスト又は個別選抜の英語の得点に加点する、や出願資格とする割合が多い。

■国立大学では「各資格・検定試験とCEFRとの対照表に基づき、共通テストの英語の得点に加点する」が32.4%、「一定水準以上の試験の結果を出願資格とする」の割合が27.0%。

英語資格・検定試験の活用方法(n=399)

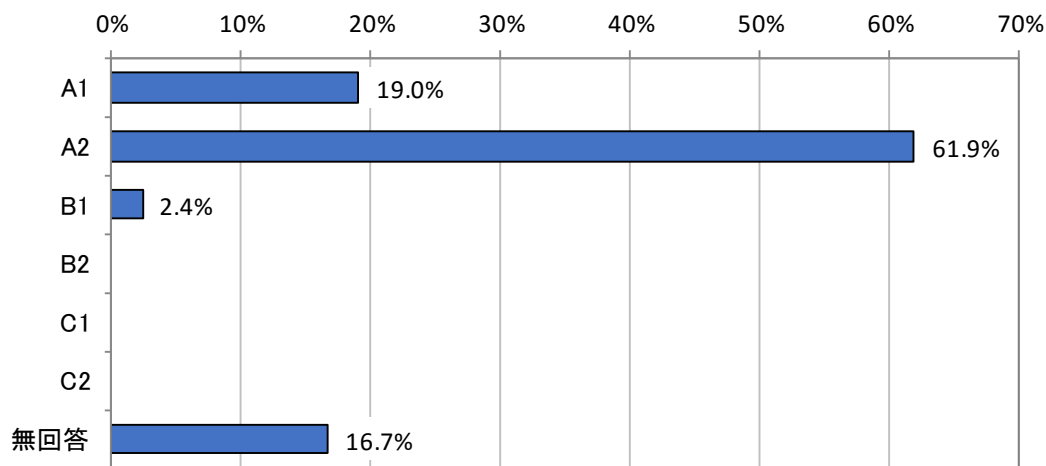


英語資格・検定試験の活用方法(設置者別)



■一定水準以上の試験の結果を出願資格とする大学において、CEFRとの対照表に基づいた学生に求めるレベルは、「A2」が6割以上。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表に基づいた
学生に求めるレベル(n=42)



各資格・検定試験とCEFRとの対照表に基づいた
学生に求めるレベル(設置者別)

